

心頭滅却し、やり過ぎした 猛暑の夏

関東八千浦会館会長
相模原市

波多野繁夫（夷浜出身）

猛暑日記録更新の今年の夏、心頭滅却すれば何とやら、私は柄にもなくある作業に没頭した為それはどこの国の話？程度の三ヶ月半であった。

- ①「歴史と向き合う、語りつづ戦争、写真が語る戦争」
- ②「昭和二十年代の生活」
- ③「教科書の歴史」
- ④「昭和二十年、三十年代、人々の楽しみ」

六月二十八日故郷八千浦（やちほ）小学校六年宿泊体験学習「八千浦出身の方々からお話を聞く会」に①②を参考資料として当日の学習に使い、③と④は後日学校に届けた資料集である。

平成十六年以来三年ぶりに国立オリンピック記念青少年総合センターで生徒四十名、引率の先生四名、関東八千浦会から

は会長以下六名が参加、あらかじめ提出されていた質問に答えるという形で学習会が進められた。

これまで生徒が研究発表し我々がそれを補足するという方法で学習会が行われてきたが二時間の限られた時間では生徒が発表しこれに一言二言我々が育ち生活した当時の様子を語るだけ、今回は時間の節約の意味も含めあらかじめ、質問項目を事前に提出しておいてもらいそれに対応するという方法をとる。

提出された質問十三項目、海浜の様子、遊び、行事、漁業、産業、学校生活、景観、食糧事情、戦中戦後の暮らし、実に多岐にわたつての質問である。

その質問に答えるべく用意したのが冒頭に記した①②の資料集である。

①は朝日新聞の連載特集記事及読者の投稿を私が収録しこれをコピーした約四

十枚。

②は平成十四年の体験学習会に合わせ収集した「昭和二十年代の生活」の資料に今回新たに街の様子、謄写版、五銭から百円迄の旧紙幣七種類、蛇腹、二眼レフ等の旧カメラの写真、等々の写真やコピーを追加。

さらに後日「充員召集令状（通称赤紙）」のカラーコピー、肥後守（小刀）を紹介した新聞コラム、これ等を先に渡した資料に加えるよう送る。

「百聞一見に如かず」六年生といえどまだまだ社会経験も未熟な年代、百万言を費やしても我々の若き時代を理解するには至らない筈、ましてや読解力は個々に大きな格差が有る。短時間に理解させるには出来るだけ物を、映像を見せる事が一番である。こんな思いで遊具も街の民芸品店を廻り買い求め竹馬、パチンコ、核紙鉄砲等々入手出来ない物は手作り、防空頭巾、モンペは女性会員の手を煩わせての手作り、これ等を見て生徒も先生もびっくり、これで生徒が理解したと確信する。

後日あらかじめ提出されていた質問にはなかった為「教科書の歴史」「昭和二十年代、三十年代、人々の楽しみ」については後日資料を整え届けると約束する。

さてそれからが大変、年金暮らしの上のアルバイト生活、勤務の日程と時間を



波多野繁夫さん

工夫しての図書館通い、幸い若い美人司書三人、私の目的をよく理解しての協力、図書館に訪れる度に私が必要とする資料をその日の目的に合わせ整えておいて下さる。しかも必要とする個所にはインデックス付である。

感謝感激、その作業の繰り返しで閲覧した本は百冊は下らない。
約束通り「教科書の歴史」は七月末に資料収集完了。

内容は

- 一、教科書のあゆみ
 - 二、江戸時代の手習書
 - 三、明治大正の教科書
 - 四、昭和の教科書
 - 五、初等科算数
 - 六、カズの本一、四のCD一枚
 - 七、カズの本さし絵画家今関啓司氏
 - 八、戦中戦後の学校と生徒
 - 九、藩校、塾、寺子屋
- である。
早速学校にあてて発送。

つづいて「昭和二十年、三十年代、人々の楽しみ」と題し四冊のファイルブックにまとめる作業にとりかかる。

内容は

一、昭和二十年、三十年代、の世の中の様子

二、銭湯

三、紙芝居

四、野球

五、日本の映画

六、洋画

七、テレビ、ラジオ

八、レコード

九、雑誌と漫画

等々であり銭湯は銭湯絵で当時最も多かった富士山と海の絵をカラーコピーで十数枚。

紙芝居は黄金バットの作品二巻を写真

で。

野球は二十一年から二十三年迄の選手名鑑と成績、そして二十二年から二十五年にかけて存在した女子プロ野球を。

日本の映画は大映、東映等邦画五社のポスターを写真で八十カット三二〇枚、洋画は当時上映された全作品のチラシをコピーし収録。

テレビは放送開始当時の様子と機器、ラジオは真空管初期ラジオやカーボンマイクを含め脱真空管初期のラジオを。

レコードは出来るだけ多くのジャケッ



トを各分野に亘って集めコピー。

そして雑誌と漫画は当時の特徴「附録」の一部の写真、「のらくろ」「少年倶楽部」発刊からの全紙の表紙と内容の一部の写真、そして江戸川乱歩、田河水泡等人気作家の作品集とプロフィールを収録。

以上収録した資料は小学六年生にとつては少々程度が高かったかもしれない。しかし大人であり教育を専門とする教師が色々と制約される中であつてこの程度、これ位の量と決めてかかつて資料を生徒に与える。もっと悪いのはこれが答えです、これが正しいと結論を生徒に押し付ける事である。

私も中学二年生を頭に二才まで四男五女の孫がいるが時には大人の常識をこえる行動に出る。又意外なものに興味を示す。物量の多少、物の大小、人はそれぞれ

の生活環境、育つて来た条件により多少大小の概念が異なつた。これを無視しにくくりにして「多くの映画が：「少ない給料で：」と教えても生徒が一率に同じ数量を思い浮かべるとは限らない。

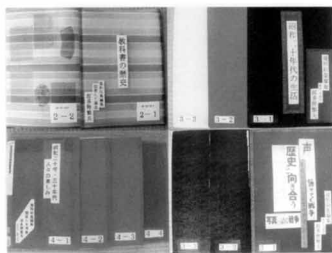
生徒には可能な限り多くの材料資料を与え比較検討し結論を自分で引き出す。そんな事を期待しての資料収集であつた。

温故知新という言葉がある。

学期が終わるにあたり多くの生徒からA4用紙一枚にびっしりと書かれた礼状、ほぼ全員でありその多くは昔の海浜の汚れの無さに驚き、何でも工夫して遊具とした知恵に関心、反面食料事情の悪さに小さな胸をいためていた。

学校へ送った資料の送り状に是非これから卒業迄続く生徒の今回のテーマの学習に、父母は勿論のこと祖父母も加え共に自分達が住む八千浦地区が少くない産業、過酷な自然に打ち勝ち上手に利用して生き抜いて来た先祖の智慧と努力を学ぶと同時に、私の資料の不足を補つてほしいと記す。

一つのテーマで子が父母や祖父母の話聞く、我々が幼少の頃毎晩囲炉裏を囲んでやっていた事、囲炉裏がリビングルームに変わろうとも是非実行し失われつつある家族の会話、父母祖父母への尊敬の念、そして家族の絆を深めてもらいたい。只管願うばかりである。



「あおぞら」学年 宿泊体験学習 in 東京 2007年6月27日～29日